

疫学（臨床）研究実施についてのお知らせ

大阪市立大学大学院医学研究科
消化器内科学

【研究課題名】

炎症性腸疾患患者における筋肉量の影響についての検討

【研究期間】

倫理委員会承認後 ～ 2019年3月31日

【研究の意義・目的】

潰瘍性大腸炎、クローン病などの炎症性腸疾患は近年増加している難治性の厚生労働省指定難病です。ガイドラインにおいて様々な治療方針が定められていますが、治療効果の乏しい症例もあります。一方、サルコペニアに代表される筋肉量が、整形外科疾患や癌、肝硬変などにおいて、薬剤による治療効果や手術の合併症、予後などに影響を与えるとされています。この研究において炎症性腸疾患における筋肉量の影響について診療録を用いて検討を行い、疾患のメカニズムを理解し新たな診断と治療法の開発につなげるため、研究を行います。

【研究の方法】

上記の疾患と診断されている患者様について、診療録に記載・保存されている内容や検査結果を用いて治療法と筋肉量との関係などについて検討を行います。

【研究組織】

研究責任者 湯川 知洋
大阪市立大学大学院医学研究科 消化器内科学

【本研究に関する問い合わせ先】

研究責任者 湯川 知洋
大阪市立大学大学院医学研究科 消化器内科学
電話 06-6645-3811